

兵庫県公報

令和2年5月22日 金曜日 号 外

発行人
兵庫県
神戸市中央区下山手通
5丁目10番1号

毎週火曜日及び金曜日発行、
その日が休日のときはその翌日



(兵庫県民の旗＝県旗)

目次

| 規 則 | ページ |
|--|-----|
| ○ 産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則の一部を改正する規則 (新産業課) | 1 |
| 公 告 | |
| ○ 産業立地の促進に関する基本指針の変更 (新産業課) | 6 |

公布された法令のあらまし

●産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則の一部を改正する規則（規則第30号）
産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例（以下「条例」という。）に規定する立地促進事業等の実施をより一層促進し、産業の活性化及び新たな雇用の創出を図るため、条例による支援の対象となる立地促進事業等の範囲を拡大する等、所要の整備を行うこととした。

規 則

産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則の一部を改正する規則をここに公布する。
令和2年5月22日

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県規則第30号

産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則の一部を改正する規則

産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則の一部を改正する規則（平成14年兵庫県規則第57号）の一部を次のように改正する。

第7条第2項第1号中「資産をいう。以下」を「資産をいう。第4項において」に、「第14条第1項」を「第19条第1項」に改め、「(以下」の右に「この項及び第4項において」を加え、「法人が、」を「法人が中小企業者(」に、「(発行済株式」を「をいい、発行済株式」に、「当該中小企業者」を「同項に規定する中小企業者」に改め、「法人をいう。以下」及び「役員をいう。以下」の右に「この号において」を加え、「以下「中小企業者」という」を「第4項において同じ」に改める。

第18条中「以下」の右に「この条において」を加え、「平成36年3月31日」を「令和6年3月31日」に改める。

第19条第1項中「者は」の右に「、あらかじめ」を加え、「、行う」を「、行おうとする」に改め、同項第2号中「行う」を「行おうとする」に改め、同条第2項を削り、同条第3項中「第1項の規定による確認」を「前項の規定による確認」に改め、「以下」の右に「この項において」を加え、同項を同条第2項とする。

附則第2項及び第3項中「平成36年3月31日」を「令和6年3月31日」に改める。

別表を次のように改める。

別表（第2条、第9条、第12条関係）

| 分野 | 対象事業 | 施設 |
|----------------|--|---------------------------|
| 1 医療・福祉に関連する分野 | 1 高度な医療技術の発展に寄与する医療機器であって、高い性能を有するものの開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |

| | | |
|---------------|---|--|
| | 2 高度な医療技術の発展に寄与する医薬品又は医療用品その他これらに類するものの開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 3 高度な医療技術の発展に寄与する製品の開発若しくは製造に必要な機械のメンテナンス又はその性能の検査、分析、証明等のサービスを行う事業 | 事務所、試験研究施設、検査施設及びこれらの附帯施設 |
| | 4 医療関係の卸売業のうち、高度な医療技術の発展に寄与する製品の開発又は製造に寄与する事業 | 事務所、流通施設及びこれらの附帯施設 |
| | 5 介護を行う者の負担の軽減等に資する福祉用具の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 6 健康の保持及び増進を図るための機器、器具又は用品の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 7 問診、尿検査、血圧検査、心電図検査等の健康診断の実施及びその結果の管理を行うサービス、医療機関の紹介その他健康若しくは医療に関する情報の提供を行うサービス又は健康に関する指導を行うサービスを総合的に提供する事業 | 事務所、試験研究施設、検査施設及びこれらの附帯施設 |
| | 8 保健師、看護師等を派遣し、高齢者等の看護を行うとともに、身体機能の回復訓練及び本人又は家族に対する保健に関する指導のサービスを行う事業 | 事務所、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 9 訪問介護事業に属する事業のうち、ホームヘルパーを派遣し、高齢者等の食事、衣類の着脱、入浴等の介助又は調理、洗濯、清掃等家事の援助のサービスを行う事業 | 事務所、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 10 訪問介護事業に属する事業のうち、浴槽を備えた車両を派遣し、高齢者等を介助の上入浴させるサービスを行う事業 | 事務所、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| 2 生活文化に関連する分野 | 1 高齢者等が安全かつ快適に利用できるよう配慮された住宅その他の優良な住宅の建築の促進に資する技術の開発を行う事業 | 事務所、試験研究施設、展示施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 2 災害等の防止に資する技術の研究又は開発を行う事業 | 事務所、試験研究施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 3 耐震性、耐火性等に優れた素材、製品等の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、展示施設及びこれらの附帯施設 |
| | 4 遊園地その他のレクリエーション施設、教養文化施設、スポーツ施設又は宿泊施設の設置及び運営を行う事業 | 遊戯施設、展示施設、体験施設、劇場施設、試験研究施設、スポーツ施設、マリーナ施設 |

| | | |
|-------------|---|---|
| | | (スポーツ又はレクリエーションの用に供されるヨット、モーターボートその他の船舶に係留する施設及びこれらの船舶の利便に供する施設をいう。)、宿泊施設及びこれらの附帯施設 |
| | 5 デザインに関する専門的なサービスを行う事業 | 事務所、試験研究施設、展示施設、デザイン室及びこれらの附帯施設 |
| | 6 繊維工業品、雑貨工業品、貴金属製品、家具類等の製品について独自のデザインの開発をし、かつ、当該デザインを利用した製品の製造又は卸売を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、展示施設、デザイン室、取引所及びこれらの附帯施設 |
| | 7 高度な情報通信技術を用いた電化製品又は当該製品に用いられる部品の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 8 健康食品、機能的食品、高齢者向け食品、核家族に対応した小容量の食品又はバイオテクノロジーその他高度な技術を利用した食品の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 9 学校、病院等の施設において提供される食事又は飲食店において提供される料理をこれらの施設に供給するために集中的に調理するサービスを行う事業 | 事務所、調理施設、流通施設及びこれらの附帯施設 |
| | 10 豊かな県民生活又は産業の高度化に寄与する人材の育成を行う事業 | 事務所、教室、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 11 多様化する県民のニーズを充足する製品の販売又は賃貸を行う事業 | 事務所、店舗、流通施設及びこれらの附帯施設 |
| | 12 多様化する県民ニーズを充足する飲食その他日常生活に関連したサービスを提供する事業 | 事務所、店舗、及びこれらの附帯施設 |
| | 13 法律、財務、会計その他の専門的な知識又は技術を用いたサービスを提供する事業 | 事務所、店舗、及びこれらの附帯施設 |
| 3 環境に関連する分野 | 1 高度な技術を利用した集じん装置、排水処理装置その他の公害防止装置の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |

| | | |
|----------------|---|----------------------------------|
| | 2 環境への負荷の低減に資する原材料の製造に係る技術の開発又は当該技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 3 再生資源の利用の促進に資する技術の開発又は当該技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 4 エネルギーの使用若しくはオゾン層を破壊する物質の使用の合理化に資する技術の開発又は当該技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 5 水質若しくは土壌の浄化その他の自然環境の回復に資する技術の開発又は当該技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 6 都市の緑化の促進に資する高度な技術の開発又は当該技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 7 環境測定又は環境への負荷の低減に係るコンサルティングを行う事業 | 事務所、測定施設、検査施設及びこれらの附帯施設 |
| 4 情報・通信に関連する分野 | 1 情報処理又は電気通信の高度化に資する電子機器、通信機器等の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 2 電気通信による情報の流通の円滑化に資する技術の開発又は提供を行う事業（1の項に掲げるものを除く。） | 事務所、試験研究施設、情報処理施設、スタジオ及びこれらの附帯施設 |
| | 3 ソフトウェア業、情報処理サービス業又は情報提供サービス業に属する事業 | 事務所、情報処理施設、展示施設及びこれらの附帯施設 |
| | 4 情報通信技術を用いて、新たなサービスを提供し、又はサービスの提供の方式を改善する事業（貸金業、興信所、廃棄物処理業、労働団体、政治団体、宗教及び外国公務に属する事業を除く。） | 事務所、試験研究施設、情報処理施設、スタジオ及びこれらの附帯施設 |
| | 5 映像等の情報を処理する高度な技術の開発又は当該技術を用いた作品の制作を行う事業 | 事務所、情報処理施設、展示施設、スタジオ及びこれらの附帯施設 |

| | | |
|--------------------|---|--|
| | 6 電子機器又は通信機器を利用した顧客情報等の情報のバックアップを行う事業 | 事務所、情報処理施設及びこれらの附帯施設 |
| 5 新製造技術・新素材に関連する分野 | 1 生産性の向上、省力化、品質の向上等に寄与する新たな製造工程の開発又は当該製造工程に用いる製品の製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、展示施設及びこれらの附帯施設 |
| | 2 機械の構造に関する新たな技術若しくは高度な加工技術の開発又はこれらの技術を用いた製品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、展示施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| | 3 機能性に優れた新たな素材の開発又は当該素材を用いた開発若しくは製品の製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設、展示施設及びこれらの附帯施設 |
| 6 輸送・物流に関連する分野 | 1 大量輸送、高速輸送又は効率的な輸送に対応した製品の開発又は製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 2 安全で快適な移動に資する技術の開発又は燃料電池車等環境への負荷の低減に資する製品若しくは部品の開発若しくは製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 3 事故若しくは渋滞の抑制若しくは都市環境の改善に寄与する交通体系の整備又は当該交通体系の整備に用いられる製品の製造を行う事業 | 事務所、試験研究施設、生産施設及びこれらの附帯施設 |
| | 4 荷主企業の委託を受けて、荷役、在庫管理等の物流に係る業務を代行する事業 | 事務所、流通施設及びこれらの附帯施設 |
| | 5 荷役、保管、仕分け、運搬等の物流の効率化、省力化等に寄与するシステムの開発又は当該システムを利用する事業 | 事務所、流通施設、試験研究施設、研修施設及びこれらの附帯施設 |
| 7 国際化に関連する分野 | 1 国際見本市場施設、同時通訳設備を備えた国際会議場施設その他の外国との経済交流又は文化交流の促進を図るための施設の設置及び運営を行う事業 | 事務所、見本市場施設、会議場施設、展示施設及びこれらの附帯施設 |
| | 2 外国企業等(条例第2条第2号イに規定する外国企業及び外資系企業をいう。以下同じ。)が我が国において行う事業の円滑な実施を支援する役務又は施設(外国企業等が行う事業を支援するための共用の受付、会議室その他の外国企業等が行う事業等を支援するための施設を備えたものに限る。)の提供を行う事業(1の項に掲げるものを除く。) | 事務所、貸事業場、店舗、試験研究施設、情報処理施設、スタジオ及びこれらの附帯施設 |
| | 3 外国企業等が行う事業のうち、当該事業により提供される商品又はサービスが県内産業の活性化に寄与する事業(1の項及び2の項に掲げるものを除く。) | 事務所、店舗及びこれらの附帯施設 |

| | | |
|------------------------|--|--|
| 8 農林水産業 に関連する分 野 | 1 農林水産業の収益力の強化に必要な施設の設置及び運営 を行う事業 | 生産施設、機具収納施設 、試験研究施設及び これらの付帯施設 |
| | 2 県産農林水産物の加工等に関する事業 | 加工施設、販売施設、 地域食材供給施設、展 示施設及びこれらの 付帯施設 |
| | 3 農園その他の農林水産業の体験に供する施設の設置及び 運営する事業 | 農林水産業体験施設、 機具収納施設、調理施 設、加工施設、休憩施 設、簡易宿泊施設及び これらの付帯施設 |
| 9 その他の分 野 | 1の款から8の款までに掲げる事業に準ずる事業であって、 高度な技術を活用するもの又はゆとりのある質の高い県民生 活の実現若しくは国際経済交流の促進に寄与するものとして 知事が特に必要と認める事業 | 事務所、店舗、流通施 設及びこれらの付帯 施設 |

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、公布の日から施行する。

(経過措置)

- 2 この規則による改正後の産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例施行規則（次項において「改正後の規則」という。）第19条第1項及び別表の規定は、令和2年4月1日から適用する。
- 3 令和2年4月1日からこの規則の施行の日までの間に事業を開始した者に係る改正後の規則第19条第1項の規定の適用については、同項中「あらかじめ」とあるのは「速やかに」と、「行おうとする」とあるのは「行う」とする。

公 告

産業立地の促進に関する基本指針の変更

産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例（平成14年兵庫県条例第20号）に基づき定めた産業立地の促進に関する基本指針を変更したので、同条例第3条第3項の規定により、次のとおり公表する。

令和2年5月22日

兵庫県知事 井戸敏三

産業立地の促進に関する基本指針

第1 総則

1 基本指針制定の趣旨

基本指針は、県内の優れた産業基盤及び地域特性を生かした産業立地を促進することにより、産業の活性化と新たな雇用の創出を図り、もって本県産業の発展と地域経済の振興に寄与することを目的とする「産業立地の促進による経済及び雇用の活性化に関する条例」（平成14年兵庫県条例第20号。以下「条例」という。）に基づき、産業立地を促進する基本的方向、拠点地区の設定に関する事、産業立地の目標の設定に関する事、産業立地を図るための支援に関する事、促進地域の設定に関する事等について指針となるべき事項を定めるものとする。

2 産業立地を促進する基本的方向

県は、兵庫県地域創生条例（平成27年兵庫県条例第4号）に定める基本理念にのっとり、県内の優れた産業基盤及び地域特性を生かしつつ、多様な産業立地を促進し、もって地域産業の活性化及び新たな雇用の創出を図るものとする。

(1) 拠点地区の設定

県内には高度にインフラ整備された数多くの産業団地、国際的な研究開発機関、さらには都心部のオフィスビルの集積など、地域経済の活性化及び雇用の創出に資する成長産業の活動拠点となるポテンシャルを有する地域が多数存在する。

本県では、このような地域において、その地域が有する地理的特性や産業インフラ、生活環境など地域の特色に応じた拠点地区を設定し、産業の活性化及び新たな雇用の創出に寄与する立地促進事業を行う国内外企業の立地を推進していく。

また、中枢市街地における低未利用地の高度利用、大規模工場跡地や遊休施設の集積地等の早期利活用を促進するため、それらに応じた拠点地区を設定し、立地促進事業に限らず、研究開発拠点など、多様な産業の集積を図っていく。

(2) 県内全域でのバランスの取れた産業立地

拠点地区において集積を進める一方、県内全域でのバランスの取れた産業の活性化と新たな雇用の創出を図っていくため、拠点地区以外の区域においても立地支援措置を実施し、県内全域での幅広い産業立地を促進していく。

特に、本格的な人口減少社会や高齢社会を迎えようとする中、但馬地域、丹波地域、淡路地域等の多自然地域での立地支援措置を手厚くし、雇用の確保などにより地域間格差の解消に努め、地域の活性化を促進する。

3 拠点地区設定の考え方

(1) 拠点地区の設定に関する事項

新たな経済環境にふさわしい多様な産業が集積する拠点を形成し、これらの産業を核とした産業間の有機的な連携を通じて、本県産業の活性化を図っていくため、「国際経済地区」、「工場立地促進地区」、「都市再生高度業務地区」及び「工場跡地等再生促進地区」の4種類の拠点地区を設定し、それぞれの拠点に適した優遇措置を講じていく。

(2) 指定拠点地区の指定

知事は、市町長の申出に基づき、拠点地区ごとに定める指定要件に該当する地区を指定拠点地区として指定できるものとする。また、市町長からの申出がない場合においても、知事が特に必要と認めるときは、あらかじめ地元市町長の意見を聴いた上で、知事自ら拠点地区形成計画を定め、当該指定拠点地区の指定を行うことができるものとする。

(3) 指定拠点地区の解除

知事は、市町長の申出に基づき、指定拠点地区指定を解除できるものとする。また、市町長からの申出がない場合においても、知事が指定の意義を失ったと認める指定拠点地区については、あらかじめ地元市町長の意見を聴いた上で当該指定拠点地区の指定を解除できるものとする。

4 促進地域の設定に関する事項

(1) 条例第7条第1項に定める促進地域は、但馬地域、丹波地域、淡路地域及びその他人口、産業構造等を勘案して知事が特に必要と認める地域とする。

(2) 但馬地域、丹波地域及び淡路地域以外の地域を、促進地域に指定しようとする際に考慮すべき事項は、次の事項とする。なお、指定は、原則として市町の区域を単位として行う。

ア 人口増減率

イ 老年人口比率

ウ 製造品出荷額等

エ 地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律（平成19年法律第40号）に基づく基本計画の有無

オ 工場立地動向調査（経済産業省）における立地件数

(3) 促進地域においては、市町との連携のもと、産業立地を図るための支援を重点的に行い、県内全域のバランスの取れた産業立地を促進していく。

5 産業立地の目標の設定に関する事項

ひょうご経済・雇用活性化プランの計画期間に合わせ、達成すべき企業立地件数の目標を年度別に設定する。

設定に当たっては、工場、物流施設、研究施設、外国企業等立地種別の区分ごとに具体的な目標値を明示する。

第2 国際経済地区に関する事項

1 産業集積を推進する基本的方向

国際経済地区においては、内外の企業による活発な投資を促進し、優れた技術やサービス、経営ノウハウ等を有する外国企業及び外資系企業を核とした国際的なビジネス交流の拠点的形成していくこととしており、このことにより地域経済に有用な刺激を与え、地域経済の活性化、新規事業の創出等を図っていくこととしている。

このため、立地促進事業のうち、地域経済への波及効果が将来にわたって持続的に期待できる成長分野における外国企業及び外資系企業、それらをサポートする企業及び取引先その他の関連企業等が実施する事業を国際経済交流事業とし、当該事業の集積を図っていくこととする。

2 国際経済地区の設定に関する事項

(1) 地区の指定要件

国際経済地区には、新たに国際経済交流事業が集積するにふさわしい事業環境が整っている必要がある。すなわち、外国企業及び外資系企業が進出するための業務系賃貸建物の存在はもとより、事業展開を支援する、法人向けサービス、生活関連サービス等のいわゆる都市機能が充実した地区で、次のいずれかに該当する地区を市町長の申出に基づき知事が指定できるものとする。

ア 都市計画法(昭和43年法律第100号)第8条第1項第1号に規定する商業地域又は近隣商業地域(以下「商業地域等」という。)が、おおむね30ヘクタール以上連たんしている地区であること。

イ 同法第7条第2項に規定する市街化区域(大阪湾臨海地域開発整備法(平成4年法律第110号)第2条第1項に規定する大阪湾臨海地域については、当該地域)であって、業務系建築物を含む、おおむね10ヘクタール以上の規模での開発等が見込まれる地区であること。

(2) 知事指定の特例の場合の指定要件

国際経済地区の指定に際しては、市町長が知事に対して指定の申出を行うものとするが、市町長からの申出がない場合においても、上記指定要件に該当し、かつ、地域整備の推進又は産業振興を図っていく上で知事が特に必要と認める地区については、知事自らその拠点地区形成計画を定め、指定を行うことができるものとする。ただし、指定に際しては、あらかじめ地元市町長の意見を聴くものとする。

3 産業の集積の目標の設定に関する事項

(1) 目標時期

国際経済地区における国際経済交流事業の集積促進に当たっては、本県産業の活性化と新たな雇用の創出を迅速かつ確実に進めるという趣旨に鑑み、国際経済地区形成の早期達成を目指す。

(2) 国際経済交流事業の集積に関する目標

国際経済交流事業の集積の促進に当たっては、次の目標を設定する。

ア 国際経済地区内への産業機能の集積目標

国際経済地区を含む地区の開発計画のコンセプト等に基づき推進すべき産業機能の集積目標

イ 国際経済交流事業の集積目標事業所数

目標時期までに国際経済地区内に立地が見込まれる分野別の国際経済交流事業の集積目標事業所数及び雇用者数

4 市町長が国際経済交流事業の集積目標を設定する際の留意事項

市町長が国際経済地区の形成計画を作成するに当たって、国際経済交流事業の集積目標を設定する際は次の点に留意するとともに、中核的な施設が整備される場合は、その活用可能性についても十分配慮しなければならない。

(1) 規則に規定する国際経済交流事業との整合

国際経済地区内に集積を図る国際経済交流事業は、規則第2条第2項に規定する国際経済交流事業の全部又は一部の中から、当該拠点地区内に集積を図ることが適当と認められるものを設定すること。

(2) 経済・社会環境への対応

国際経済地区内に集積を図る国際経済交流事業は、消費者ニーズの多様化、技術革新の進展、国際化の進展等経済・社会環境の変化に適切に対応した事業であること。

(3) 既存の産業集積の活用

国際経済地区内に集積を図る国際経済交流事業は、既存の産業集積の技術、情報、人材等との効果的な連携が図られる事業であること。

5 産業集積を図るための支援に関する事項

外国企業及び外資系企業を持つ優れた技術やサービス、経営ノウハウ等を積極的に導入し、国内外企業による多様な競争、連携を促進していくことにより、新たな産業のほう芽を促し、産業構造改革の促進、産業のグローバル化に対応した地域産業を創造していくことが重要であることから、外国企業及び外資系企業の事業環境が整備されている国際経済地区において、県と市町が協力して、国際経済交流事業を行う外国企業及び外資系企業等の進出初期に係る負担を軽減すること等により、国際経済地区の形成を促進していく。

(1) 課税の特例措置

県は、条例第8条の規定に基づき、国際経済交流事業に係る事業税の不均一課税を行うものとする。

(2) 立地支援

外国企業・外資系企業等が新たに国際経済地区に立地する場合において、次の補助制度を活用し、企業の初期投資の軽減を図るものとする。

ア オフィスビル等の賃料負担に対する補助制度

建物の賃借を行って立地する場合の賃料に対する補助制度により、外国企業・外資系企業等の立地を支援する。

イ 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域にあっては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあっては、6人）以上を伴う外国企業・外資系企業等の立地を支援する。

ウ 法人設立等に要する経費に対する補助制度

市場調査や法人登記等に要する経費に対する補助制度により、外国企業・外資系企業等の設立・本社移転を支援する。

エ 設備投資に対する補助制度

企業が行う先端性を有する立地促進事業に係る設備投資に対する補助制度（補助率3%、原則10年均等分割払）により、20億円（中小企業にあっては、10億円）以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

なお、促進地域にあっては、特に立地を強化すべき立地促進事業に係る企業が行う設備投資に対する補助制度（補助率5%、原則10年均等分割払）により、1億円以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

また、研究開発型企業が行う5億円（促進地域にあっては、1億円）以上の設備投資に対する補助制度（補助率5%（促進地域にあっては、7%））により、研究開発型企業の立地支援を行う。

(3) 資金の融通支援

国際経済地区に立地する企業が、これに伴う土地、建物及び機械等の設備を取得するに際して行う資金の調達に係る融資（限度額100億円）など必要な資金の融通に係る支援を図るものとする。

(4) ビジネス交流の支援

外国企業及び外資系企業等の円滑な事業展開を支援するため、本県企業等とのビジネスマッチング、起業支援、研究交流活動のサポート等の拡充・強化を行うものとする。

(5) 生活環境の整備

外国人ビジネスマン等の生活関連支援、外国語表記の普及など外国人にとっての親しみのあるまちづくりを推進するものとする。

6 市町が行う税制及び財政上の支援に関する事項

国際経済地区の形成は、県及び市町が互いに協調して、立地企業等に対する支援策を講じていくことが効果的である。

市町においては、その実情に即して、国際経済交流事業の集積を効果的に推進するため、県が実施する支援策等に準じて、次に掲げる課税の特例等税制及び財政上の支援といった各種の施策を積極的に展開するとともに、県の支援策等に併せた独自の施策を積極的に展開するよう努めるものとする。

また、国際経済地区に立地する国際経済交流事業の事業活動に係る利便性を高めるための産業基盤やまちづくりの視点にも立った優れた都市基盤の整備を推進するため、市町においては、道路をはじめとする公共事業の推進による社会資本整備の推進に努めるものとする。

(1) 企業等進出に対する支援

外国企業及び外資系企業等を対象としたオフィス賃料補助金等、企業進出に対する支援措置を図るものとする。

7 国際経済交流事業として集積を促進する分野

次の(1)から(8)までに掲げる立地促進事業のうち、国際経済交流の促進に寄与する事業を国際経済交流事業として集積を促進する。

(1) 医療・福祉に関連する分野

急速な高齢化の進展に伴い、高齢者ニーズに対応した、診療時に患者の体に負担を掛けない高度医療機器や在宅・遠隔医療サービス、予防医療サービスなど医療産業に対する需要が増加している。

また、福祉分野においても、少子化の進展とも相まって、介護施設における高度な介護技術や在宅介護に対する需要が高まるとともに、高齢者等の自立に対応した福祉用具及び生活空間のバリアフリー化関連産業の成長が見込まれる。

こうした高齢社会の到来に伴う疾病構造の変化、要介護者の急激な増加等に対応するため、高度医療機器開発、バイオ医薬品開発、健康管理支援サービス等医療関連事業及び福祉用具開発、在宅介護サービス等福祉関連事業といった今後成長が期待される医療・福祉に関連する分野を集積させることが望まれる。

(2) 生活文化に関連する分野

消費者ニーズが高度化し、製品やサービスに一層の利便性や快適さの向上が求められている現在、生活者の価値観が効率優先や量的拡大からゆとりと豊かさや生活の質の重視へと変化してきている。

こうした消費者意識の変化等に対応するため、優良な住宅建築の促進に資する技術開発事業、スポーツ・レクリエーション施設等の設置及び運営事業並びにデザイン関連事業といった今後成長が期待される豊かで快適な生活に資する分野を集積させることが望まれる。

(3) 環境に関連する分野

大気汚染や水質汚濁といった公害問題のほか、地球温暖化等の地球環境問題や廃棄物問題といった都市型・生活型問題など新たな環境問題が深刻化している。

こうした中で、住民の環境意識の高まりと企業の環境への取組が活発化していることから、公害防止装置開発事業、環境に配慮した原材料の製造技術開発事業、廃棄物等の処理及び再資源化等の促進に資する技術開発事業、水質及び土壌の浄化等に関する技術開発事業並びに都市の緑化促進に資する技術開発事業といった今後発展が期待される環境に関連する事業分野を集積させることが望まれる。

(4) 情報・通信に関連する分野

情報・通信関連産業は、技術革新と普及拡大により、産業・生活に大きな変化を及ぼしてきており、高度な情報・通信技術は、業務の効率化、生産性の向上等を通じてあらゆる産業の基盤的資源となり、教育、医療、文化、芸術など広い範囲への応用が可能であることから、今後国民生活のあらゆる局面においてその浸透が進んでいくと見込まれる。

こうした情報化の進展を踏まえ、情報処理又は電気通信の高度化に資する電子機器・通信機器等の開発事業、新たな情報の創出及び提供サービス事業といった情報・通信に関連する分野を集積させることが望まれる。

(5) 新製造技術・新素材に関連する分野

生産施設の海外移転による本県産業の空洞化に対応するためには、これまでの高度な生産技術やノウハウの蓄積、高いレベルの生産技術者や優秀な熟練工等の人材を活用し、リサイクル対応生産システム、機械と情報システムの融合化、マイクロマシン技術等の新製造技術に関連する分野、さらに地球環境への負荷の小さい素材、情報システム等の進歩を支える高度なセラミック等の新素材に関連する分野を集積させることが望まれる。

(6) 輸送・物流に関連する分野

輸送・物流関連分野は、道路、空港、港湾等が一体となって、産業活動の基盤を形成する分野であり、成長産業分野の発展をより確実なものとしていくためには、輸送・物流関連分野の高度化が不可欠である。消費者ニーズの多様化・高度化、情報システムの飛躍的な進歩、製販直結、規制緩和等により新たな技術及びサービスが開拓され市場が拡大するものと見込まれており、我が国屈指の交通結節点である本県の優位性を生かし、輸送・物流に関連する分野を集積させることが望まれる。

(7) 国際化に関連する分野

国際貿易港神戸港に加えて、関西国際空港の整備等によって、アジアをはじめ世界に向けた窓がさ

らに大きくなる中で、国際交流の機会が今後ますます増大し、兵庫の国際化は一層進展していくものと予想される。こうした国際化の進展に伴い、国際見本市場施設、国際会議場その他外国との経済あるいは文化交流の促進を図るための施設の設置及び運営事業並びに外国企業等の事業の円滑化に向けた支援事業といった国際化関連市場の発展に伴い成長が期待される国際化に関連する分野を集積させることが望まれる。

(8) 農林水産業に関連する分野

地域を支える成長産業としての農林水産業を確立するためには、大都市近郊に立地し、多様な自然環境に恵まれた本県の特性を最大限に活かして、多様な経営モデルを広げ、県産農林水産物の供給力を高めていくことが必要となる。

このため、企業の農業参入をはじめ意欲ある多様な担い手による経営規模拡大を通じた生産性の向上に資する事業、先進技術導入による収量・品質の向上を図る生産施設の整備、県産農林水産物の競争力を高めブランド化を推進する6次産業化や新商品・新技術の開発など、先導的な取組みを行う農林水産業を集積させることが望まれる。

第3 工場立地促進地区に関する事項

1 産業集積を推進する基本的方向

工場立地促進地区は、工場適地その他産業基盤施設、市場条件等からみて工業等の立地に適すると認められる地区において、地域産業の高度化を促進し、雇用の創出に寄与する事業の集積を図っていくこととしている。

このため、立地促進事業のうち、今後も持続的な発展が期待できる成長分野における高度な技術を活用する事業及びゆとりのある質の高い県民生活の実現に寄与する事業を工場立地事業とし、当該事業の集積を図っていくこととする。

2 工場立地促進地区の設定に関する事項

(1) 地区の指定要件

工場立地促進地区には、地域産業の高度化に寄与する産業が集積し、既存産業との有機的な連携により地域産業の活性化が図られることが期待される。

このため、工場立地促進地区には、必要な土地の確保が容易であり、かつ、高速輸送に係る施設等の産業基盤の利用が容易である地区のうち、次のいずれかに該当する地区を市町長の申出に基づき知事が指定できるものとする。

ア 工場立地法（昭和34年法律第24号）第3条に規定する工場立地調査簿に掲げられている工場適地のうち、工業の集積が進みつつある地区又は道路若しくは供給処理施設等産業基盤施設が整備されている地区で、かつ、未分譲面積（企業等に売却されていない土地に限る。）がおおむね1ヘクタール（促進地域は0.1ヘクタール）以上であること。

イ 複数の製造業及びこれに関連する事業に係る工場若しくは事業場又は流通施設等の用に供するための敷地並びにこれに隣接し、緑地、道路その他の施設の用に供するための敷地として計画的に取得され、又は造成された一団の土地で、かつ、未分譲面積がおおむね1ヘクタール（促進地域は0.1ヘクタール）以上であること。

ウ 都市計画法第8条第1項に規定する工業専用地域で、工場跡地等の低・未利用地が相当数発生しているおおむね1ヘクタール（促進地域は0.1ヘクタール）以上の一団の土地であること。

エ 農村地域への産業の導入の促進等に関する法律（昭和46年法律第112号）第5条第2項第1号に規定する産業導入地区で、おおむね1ヘクタール（促進地域は0.1ヘクタール）以上の一団の土地であること。

オ アからエまでに準ずる地区で、おおむね1ヘクタール（促進地域は0.1ヘクタール）以上の一団の土地であること。

(2) 知事指定の特例の場合の指定要件

工場立地促進地区の指定に際しては、市町長が知事に対して指定の申出を行うものとするが、市町長からの申出がない場合においても、上記指定要件に該当し、かつ、地域整備の推進又は産業振興を図っていく上で知事が特に必要と認める地区については、知事自らその拠点地区形成計画を定め、指定を行うことができるものとする。ただし、指定に際しては、あらかじめ地元市町長の意見を聴くものとする。

3 産業の集積の目標の設定に関する事項

(1) 目標時期

工場立地促進地区における工場立地事業の集積促進に当たっては、本県産業の活性化と新たな雇用の創出を迅速かつ確実に進めるという趣旨に鑑み、工場立地促進地区形成の早期達成を目指す。

(2) 工場立地事業の集積に関する目標

工場立地事業の集積の促進に当たっては、次の目標を設定する。

ア 工場立地促進地区内への産業機能の集積目標

工場立地促進地区を含む地区の開発計画のコンセプト等に基づき推進すべき産業機能の集積目標

イ 工場立地事業の集積目標事業所数

目標時期までに工場立地促進地区内に立地が見込まれる分野別の工場立地事業の集積目標事業所数及び雇用者数

4 市町長が工場立地事業の集積目標を設定する際の留意事項

市町長が工場立地促進地区の形成計画を作成するに当たって、工場立地事業の集積目標を設定する際は次の点に留意するとともに、中核的な施設が整備される場合は、その活用可能性についても十分配慮しなければならない。

(1) 規則に規定する工場立地事業との整合

工場立地促進地区内に集積を図る工場立地事業は、規則第2条第3項に規定する工場立地事業の全部又は一部の中から、当該拠点地区内に集積を図ることが適当と認められるものを設定すること。

(2) 経済・社会環境への対応

工場立地促進地区内に集積を図る工場立地事業は、消費者ニーズの多様化、技術革新の進展、国際化の進展等経済・社会環境の変化に適切に対応した事業であること。

(3) 既存の産業集積の活用

工場立地促進地区内に集積を図る工場立地事業は、既存の産業集積の技術、情報、人材等との効果的な連携が図られる事業であること。

5 産業集積を図るための支援に関する事項

少子・高齢化の進展とともに、一層多様化する生活様式や質的豊かさを求める消費性向等経済・社会環境の変化に対応した市場を開拓する新しい産業の創出が求められていることから、医療・福祉、生活文化、情報・通信、新製造技術・新素材、物流等の将来の本県経済を先導していくと考えられる成長産業を集積するため、市町における独自施策と県施策とを効果的に活用することにより、地域経済活性化や雇用創出の核となる工場立地促進地区の形成を促進していく。

(1) 課税の特例措置

ア 県は、条例第8条の規定に基づき、工場立地事業に係る事業税の不均一課税を行うものとする。

イ 県は、条例第9条の規定に基づき、工場立地事業用施設の用に供する土地又は建物の取得について不動産取得税の不均一課税を行うものとする。

(2) 立地支援

工場立地促進地区に存する土地若しくは建物の購入若しくは賃借（リースを含む。）を行って立地する場合又は工場立地促進地区内の既立地企業が新たな事業展開を行う場合において、次の補助制度を活用し、企業の初期投資の軽減を図るものとする。

ア 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域にあつては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあつては、6人）以上を伴う企業立地を支援する。

イ 設備投資に対する補助制度

企業が行う先端性を有する立地促進事業に係る設備投資に対する補助制度（補助率3%、原則10年均等分割払）により、20億円（中小企業にあつては、10億円）以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

なお、促進地域にあつては、特に立地を強化すべき立地促進事業に係る企業が行う設備投資に対する補助制度（補助率5%、原則10年均等分割払）により、1億円以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

また、研究開発型企業が行う5億円（促進地域にあつては、1億円）以上の設備投資に対する補助制度（補助率5%（促進地域にあつては、7%））により、研究開発型企業の立地支援を行う。

(3) 資金の融通支援

工場立地促進地区に立地する企業等が、これに伴う土地、建物及び機械等の設備を取得するに際して行う資金の調達に係る融資（限度額100億円）など必要な資金の融通に係る支援を図るものとする。

6 市町が行う税制及び財政上の支援に関する事項

工場立地促進地区の形成は、県及び市町が互いに協調して、立地企業に対する支援策を講じていくことが効果的である。

市町においては、その実情に即して、工場立地事業の集積を効果的に推進するため、県が実施する支援策等に準じて、次に掲げる課税の特例等税制及び財政上の支援といった各種の施策を積極的に展開するとともに、県の支援策等に併せた独自の施策を積極的に展開するよう努めるものとする。

また、工場立地促進地区に立地する工場立地事業の事業活動に係る利便性を高めるための産業基盤やまちづくりの視点にも立った優れた都市基盤の整備を推進するため、市町においては、道路をはじめとする公共事業の推進による社会資本整備の推進に努めるものとする。

(1) 課税の特例措置等

工場立地事業用家屋及びその敷地である土地に対する固定資産税の不均一課税又は相当額の財政上の支援策など、県の支援策に準じた所要の特例措置を講じるものとする。

7 工場立地事業として集積を促進する分野

第2の7の(1)から(8)までに掲げる立地促進事業として集積を促進する産業分野のうち、高度な技術を活用する事業又はゆとりのある質の高い県民生活の実現に寄与する事業を工場立地事業として集積を促進する。

第4 都市再生高度業務地区に関する事項

1 産業集積を推進する基本的方向

都市再生高度業務地区では、中核拠点が集積する市街地における低未利用地の高度利用を進め、都市の再開発に取り組んでいくことが求められる。

このため、低未利用地の合理的かつ健全な高度利用及び都市機能の増進に寄与する事業を高度業務事業とし、県内産業の付加価値を高め、かつ、国際競争力を向上させる研究開発拠点など県内経済を牽引する多様な業務施設等の集積を図っていくこととする。

2 都市再生高度業務地区の設定に関する事項

(1) 地区の指定要件

都市再生高度業務地区には、高度業務事業が集積し、既存産業との有機的な連携が図られることによる地域産業の活性化が期待される。

このため、都市再生高度業務地区には、次の要件を満たす地区を市町長の申出に基づき知事が指定できるものとする。

ア 低未利用地が相当数発生している地区であること。

イ 周辺の土地利用や産業基盤の状況から、高度業務事業を実施するための業務施設等の集積を図ることが適切と認められる地区であること。

(2) 知事指定の特例の場合の指定要件

都市再生高度業務地区の指定に際しては、市町長が知事に対して指定の申出を行うものとするが、市町長からの申出がない場合においても、上記指定要件に該当し、かつ、地域整備の推進又は産業振興を図っていく上で知事が特に必要と認める地区については、知事自らその拠点地区形成計画を定め、指定を行うことができるものとする。ただし、指定に際しては、あらかじめ地元市町長の意見を聴くものとする。

3 産業の集積の目標の設定に関する事項

(1) 目標時期

高度業務事業の集積促進に当たっては、地域経済の活性化を図り、本県産業の活性化と新たな雇用の創出を迅速かつ確実に進めるという趣旨に鑑み、都市再生高度業務地区形成の早期達成を目指す。

(2) 高度業務事業の集積に関する目標

高度業務事業の集積に当たっては、次の目標を設定する。

ア 都市再生高度業務地区内への産業機能の集積目標

都市再生高度業務地区を含む地域の開発計画のコンセプト等に基づき推進すべき産業機能の集積目標

イ 高度業務事業の集積目標事業所数

目標時期までに都市再生高度業務地区内に立地が見込まれる高度業務事業の集積目標事業所数及び雇用者数

4 産業集積を図るための支援に関する事項

高度業務事業の集積を図っていくため、市町における独自施策と県施策とを効果的に活用することにより、都市再生高度業務地区の形成を促進していく。

(1) 課税の特例措置

県は、条例第8条の規定に基づき、高度業務事業に係る事業税の不均一課税を行うものとする。

(2) 資金の融通支援

都市再生高度業務地区に立地する企業が、これに伴う土地、建物及び機械等の設備を取得するに際して行う資金の調達に係る融資(限度額100億円)など必要な資金の融通に係る支援を図るものとする。

5 市町が行う税制及び財政上の支援に関する事項

都市再生高度業務地区の形成は、県及び市町が互いに協調して、立地企業に対する支援策を講じていくことが効果的である。

市町においては、その実情に即して、高度業務事業の集積を効果的に推進するため、県が実施する支援策に準じた所要の施策を積極的に展開するとともに、市町独自の施策を積極的に展開するよう努めるものとする。

また、都市再生高度業務地区に立地する高度業務事業の事業活動に係る利便性を高めるための産業基盤やまちづくりの視点にも立った優れた都市基盤の整備を推進するため、市町においては、道路をはじめとする公共事業の推進による社会資本整備の推進に努めるものとする。

第5 工場跡地等再生促進地区に関する事項

1 産業集積を推進する基本的方向

企業の経営効率化等を目的とした生産拠点の統廃合により一定規模以上の工場跡地等が発生し、当該工場跡地等の活用策が長期間にわたり定まらなければ、地域経済に多大な影響を及ぼす懸念がある場合、また、現在充分活用されていない既存建物が集積している地区で、これら遊休施設の活用等により地域経済の再活性化を図ることが見込める場合は、これらの早期の適切な利活用が求められる。

このため、工場跡地等及びその周辺の地域の活性化に寄与する事業を再活性化事業とし、生産工場だけでなく、周辺環境と調和した多様な業務施設等の集積を図っていくこととする。

2 工場跡地等再生促進地区の設定に関する事項

(1) 地区の指定要件

工場跡地等再生促進地区では、大規模な工場跡地等を早期に適切に利活用し、地域産業の活性化が図られることが期待される。

このため、工場跡地等再生促進地区には、次の要件を満たす地区を市町長の申出に基づき知事が指定できるものとする。

ア 地元市町において再活性化に向けた構想又は計画がある工場跡地又は遊休施設の集積地等であること。

イ 周辺の土地利用や産業基盤の状況から、再活性化事業の集積を図ることが適切と認められる概ね2ヘクタール以上の土地が存在すること。

(2) 知事指定の特例の場合の指定要件

工場跡地等再生促進地区の指定に際しては、市町長が知事に対して指定の申出を行うものとするが、市町長からの申出がない場合においても、上記指定要件に該当し、かつ、地域整備の推進又は産業振興を図っていく上で知事が特に必要と認める地区については、知事自らその拠点地区形成計画を定め、指定を行うことができるものとする。ただし、指定に際しては、あらかじめ地元市町長の意見を聴くものとする。

3 産業の集積の目標の設定に関する事項

(1) 目標時期

再活性化事業の集積促進に当たっては、地域経済の活性化を図り、本県産業の活性化と新たな雇用の創出を迅速かつ確実に進めるという趣旨に鑑み、工場跡地等の再生の早期達成を目指す。

(2) 再活性化事業の集積に関する目標

再活性化事業の集積に当たっては、次の目標を設定する。

- ア 工場跡地等再生促進地区内への産業機能の集積目標
工場跡地等再生促進地区の再生のコンセプト等に基づき推進すべき産業機能の集積目標
- イ 再活性化事業の集積目標事業所数
目標時期までに工場跡地等再生促進地区内に立地が見込まれる再活性化事業の集積目標事業所数及び雇用者数

4 市町長が再活性化事業の集積目標を設定する際の留意事項

市町長が工場跡地又は遊休施設に係る工場跡地等再生促進地区の形成計画を作成するに当たっては、県の「工場敷地の再利用に係る都市機能の調和等に関する要綱」（平成23年9月5日施行）に基づく敷地再利用計画書の内容が反映されるように留意すること。

5 産業集積を図るための支援に関する事項

再活性化事業の集積を図っていくため、市町における独自施策と県施策とを効果的に活用することにより、工場跡地等再生促進地区の形成を促進していく。

(1) 課税の特例措置

- ア 県は、条例第8条の規定に基づき、再活性化事業に係る事業税の不均一課税を行うものとする。
- イ 県は、条例第9条の規定に基づき、再活性化事業施設の用に供する土地又は建物の取得について不動産取得税の不均一課税を行うものとする。

(2) 立地支援

工場跡地等再生促進地区に存する土地若しくは建物の購入又は賃借（リースを含む。）を行って立地する場合において、次の補助制度を活用し、企業の初期投資の軽減を図るものとする。

ア 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域にあつては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあつては、6人）以上を伴う企業立地を支援する。

イ 設備投資に対する補助制度

企業の業務施設全般（立地促進事業に限らない。）に係る設備投資に対する補助制度（補助率3%（促進地域にあつては、5%）、原則10年均等分割払）により、10億円（促進地域にあつては、1億円）以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

また、研究開発型企業が行う5億円（促進地域にあつては、1億円）以上の設備投資に対する補助制度（補助率5%（促進地域にあつては、7%））により、研究開発型企業の立地支援を行う。

(3) 資金の融通支援

工場跡地等再生促進地区に立地する企業等が、これに伴う土地、建物及び機械等の設備を取得するに際して行う資金の調達に係る融資（限度額100億円）など必要な資金の融通に係る支援を図るものとする。

6 市町が行う税制及び財政上の支援に関する事項

工場跡地等再生促進地区の形成は、県及び市町が互いに協調して、立地企業に対する支援策を講じていくことが効果的である。

市町においては、その実情に即して、再活性化事業の集積を効果的に推進するため、県が実施する支援策等に準じて、再活性化事業用家屋及びその敷地である土地に対する固定資産税の不均一課税の実施その他の課税の特例措置又は財政上の支援といった各種の施策を積極的に展開するとともに、県の支援策等に併せた独自の施策を積極的に展開するよう努めるものとする。

また、工場跡地等再生促進地区に立地する再活性化事業の事業活動に係る利便性を高めるための産業基盤やまちづくりの視点にも立った優れた都市基盤の整備を推進するため、市町においては、道路をはじめとする公共事業の推進による社会資本整備の推進に努めるものとする。

第6 産業立地を図るための支援に関する事項

1 産業立地を図るための支援に関する事項

全県において、産業の活性化と新たな雇用の創出を図るため、拠点地区に集積を図る国際経済交流事業、工業立地事業、高度業務事業及び再活性化事業に対する支援のほか、県施策と市町における独自施策とを効果的に活用して立地促進事業等に対する支援を行い、幅広い産業の立地を促進していく。

(1) 課税の特例措置

- ア 県は、条例第8条の規定に基づき、立地促進事業等に係る事業税の不均一課税を行うものとする。

イ 県は、条例第10条の規定に基づき、促進地域において、立地促進事業施設の用に供する土地又は建物の取得について不動産取得税の不均一課税を行うものとする。

ウ 県は、条例第11条の規定に基づき、促進地域並びに工場立地促進地区及び工場跡地等再生促進地区に係る指定拠点地区として指定された区域を除く区域において、本社機能施設の用に供する土地又は建物の取得について不動産取得税の不均一課税を行うものとする。

(2) 工場等立地支援

土地若しくは建物の購入若しくは賃借（リースを含む。）を行って立地する場合又は既立地企業が新たな事業展開を行う場合において、次の補助制度を活用し、企業の初期投資の軽減を図るものとする。

ア 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域あつては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあつては、6人）以上を伴う企業立地を支援する。

イ 設備投資に対する補助制度

企業が行う先端性を有する立地促進事業に係る設備投資に対する補助制度（補助率3%（促進地域にあつては、5%）、原則10年均等分割払）により、20億円（中小企業にあつては、10億円、促進地域にあつては、1億円で先端性不要）以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

(3) 本社機能立地支援

県外三大都市圏等及び海外からの本社機能立地又は県内企業の本社機能の新增設として立地する場合において、次の補助制度を活用し、本社機能立地企業の初期投資の軽減を図るものとする。

ア 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域あつては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあつては、6人）以上を伴う本社機能立地を支援する。

イ 設備投資に対する補助制度

企業が行う立地促進事業に係る設備投資に対する補助制度（補助率5%（促進地域にあつては、7%）以内、原則10年均等分割払）により、10億円（中小企業にあつては、5億円、促進地域にあつては、1億円）以上の設備投資を伴う企業立地を支援する。

ウ 賃料補助

建物の賃借を行って立地する場合の賃料に対する補助制度により、本社機能立地を支援する。

(4) 研究開発型企業立地支援

ア 設備投資補助

研究開発型企業が行う5億円（促進地域にあつては、1億円）以上の設備投資に対する補助制度（補助率5%（促進地域にあつては、7%））により、研究開発型企業の立地支援を行う。

イ 賃料補助

建物の賃借を行って立地する場合の賃料に対する補助制度により、研究開発支援施設に入居する中小企業の研究施設等の立地を支援する。

(5) 促進地域におけるオフィスビル等入居型立地支援

建物の賃借を行って立地する場合の賃料に対する補助制度により、新規正規雇用6人以上を伴う企業立地を支援する。

(6) 事務所立地支援

次の補助制度を活用し、事務所を整備して第2の7の(1)から(8)までに掲げる立地促進事業を業とする企業の初期投資の軽減を図るものとする。ただし、市町長の申出に基づき知事が指定する区域への事務所立地は除く。

ア 新規雇用者人件費に対する補助制度

新規雇用者人件費に対する補助制度（正規雇用者1人につき30万円（促進地域あつては、正規雇用者1人につき60万円及び非正規雇用者1人につき30万円）、限度額3億円）により、新規正規雇用11人（促進地域にあつては、6人）以上を伴う事務所立地を支援する。

イ 設備投資に対する補助制度

企業が行う立地促進事業に係る設備投資に対する補助制度（補助率3%（促進地域にあつては、5%）以内、原則10年均等分割払）により、10億円（中小企業にあつては、5億円、促進地域にあ

っては、1億円)以上の設備投資を伴う事務所立地を支援する。

ウ 賃料補助

建物の賃借を行って立地する場合の賃料に対する補助制度により、事務所立地を支援する。

(7) その他の支援

ア 資金の融通支援

立地する企業等が、これに伴う土地、建物及び機械等の設備を取得するに際して行う資金の調達に係る融資など必要な資金の融通に関する支援を図るものとする。

イ 新分野進出及び創業支援

県内への進出を予定している企業又は県内の企業が、高度な技術力、独創的なアイデア等を生かした新たな製品若しくはサービスの開発又はその事業化を行うことにより立地促進事業を行う場合には、次に掲げる制度を積極的に活用して、支援措置を図るものとする。

(7) 新事業創出支援貸付制度

(4) ひょうご新産業創造ファンド

ウ 産学官連携による技術革新支援

立地した企業が大学、県の試験研究機関等との連携による技術革新を促進するための体制整備等を図るものとする。

エ 人材養成支援

雇用情勢に応じた成長産業分野等の人材獲得ニーズを踏まえ、産学官の連携により、企業ニーズを的確に反映した人材育成を図っていくものとする。

オ ワンストップサービスの充実強化

公益財団法人ひょうご産業活性化センターに設置するひょうご・神戸投資サポートセンターを中心とし、関係機関と連携を密にしながら、企業への情報提供や進出支援などを行うものとする。

2 市町が行う税制及び財政上の支援に関する事項

県内への産業立地については、県及び市町が互いに協調して、立地企業に対する支援策を講じていくことが効果的である。

市町においては、その実情に即して、立地促進事業の立地を効果的に推進するため、県が実施する支援策等に準じて、次に掲げる課税の特例等税制及び財政上の支援といった各種の施策を積極的に展開するとともに、県の支援策等に併せた独自の施策を積極的に展開するよう努めるものとする。

また、立地企業の事業活動に係る利便性を高めるための産業基盤やまちづくりの視点にも立った優れた都市基盤の整備を推進するため、市町においては、道路をはじめとする公共事業の推進による社会資本整備の推進に努めるものとする。

(1) 課税の特例措置等

立地促進事業用家屋及びその敷地である土地に対する固定資産税の不均一課税又は相当額の財政上の支援策など、県の支援策に準じた所要の特例措置を講じるものとする。

(2) 企業進出に対する支援

オフィスビル等に入居する企業を対象とした賃料補助金等、企業進出に対する支援措置を図るものとする。

第7 その他産業立地の推進に関して重要な事項

1 地域整備に関する計画等との調和

市町長がその形成を図る国際経済地区、工場立地促進地区、都市再生高度業務地区又は工場跡地等再生促進地区(以下「各拠点地区」という。)については、本指針に即するとともに、国土形成計画、近畿圏整備計画等法律の規定による地域振興に関する計画その他地域整備に関する国及び地方公共団体の計画との調和が保たれたものであること。

2 コンセンサスの形成

県内産業が発展を成し遂げるには、それぞれの産業が有機的に連携しつつ成長発展していくことにより、県内の産業立地の機能を強化していくことが重要である。そのためには、周辺地区の既存産業が立地企業と同じ認識の上に立って、自由かつ創造的な事業を展開しながら互いに連携を図ることが必要である。

このため、市町長は、地域産業のニーズを十分に踏まえ、幅広い関係者とのコンセンサスの形成に努めること。

3 国等の施策の積極的活用

県内への産業立地を効果的に促進するため、県及び市町の施策だけでなく、地域経済牽引事業の促進による地域の成長発展の基盤強化に関する法律（平成19年法律第40号）や地域再生法（平成17年法律第24号）等に基づく諸施策など、国等の施策の積極的な活用を図ること。

4 景観及び環境への配慮

産業立地の促進に当たっては、優れた景観及び環境の保全並びに形成にも十分に配慮しながら、戦略的な産業集積及び諸事業の推進に努めること。